

# 九号地共同防災組織の防災体制について

社団法人 九号地共同防災組織

### 1. はじめに

九号地(潮見埠頭)は、昭和29年3月「第9号地の大石油基地設置計画」に基づき、昭和36年5月に造成された210万平方メートルのコンクリートで囲まれた人工の島です。この九号地は、社会生活に欠かせない石油等のエネルギーを大量に貯蔵し、また取り扱うことからこのような人工の島として、他の地域への安全を保っています。この島の周辺は、高潮や油の流出に対応するため、高さ4メートルの防潮堤に囲まれ、更に1.2メートルから2.2メートルの防油堤が設置されております。また、埠頭内全域が火気に対して最新の注意を払い、名古屋市火災予防条例で、たき火、喫煙が禁止されております。

## 2. 共同防災組織の推移

昭和49年12月、岡山県倉敷市における重油流 出事故を一つの契機として、石油コンビナート 等災害防止法が制定され、名古屋市港区潮見町 区域に所在する関係各社は、「特別防災研究会」 を設け、防災対策の具体的事項の検討に着手し、 昭和51年12月に指定された特定事業所24社の合 意のもとに、共同して防災組織の設立に向け研 究を進めました。

昭和52年6月15日には名称を「九号地共同防災協議会」として会員24社で発足し、オイルフェンス展張船と共にオイルフェンス820mと泡原液1.2kℓの防災資機材を配備し、同年12月には大型化学消防車を購入、機関員は専任として、防災要員は暫定的に24社の防災要員が輪番で運

用する体制を採りました。後の昭和53年12月に 社会的信頼のもとに防災活動を推進する為に 「社団法人九号地共同防災組織」として法人格 を取得しました。

昭和54年6月に「防災センター」を設置し、 名古屋港臨海地区(図1)の潮見町内の特定事 業所が共同で大型高所放水車・泡原液搬送車を 購入し、陸上隊及び海上隊防災業務の実施体制 を整備すると共に、防災要員も専任とした防災



図 1



九号地の背景



大型高所放水車



泡原液搬送車



大型化学消防車



指揮車



オイルフェンス展張船しらゆり

体制を確立しました。また構成事業所の変革に 伴い、平成13年度に省力型の消防自動車3点 セットに更新しました。

## 3. 構成事業所(敬称略)

潮見町には名古屋市内など周辺都市へエネル ギー供給基地として活躍し、石油やアルコール などの危険物を貯蔵する屋外タンクが多数あ り、約53万kℓもの貯蔵能力があります。この石 油コンビナート特別防災区域内に平成22年12月 現在で、一種事業所・二種事業所・指定外を合 わせて20社があります。

第一種事業所								
JX 日鉱日石エネルギー(株) 名古屋油槽所	(株)辰巳商會 名古屋ケミカルターミナル							
エクソンモービル 名古屋油槽所	兼松油槽㈱ 名古屋油槽所							
丸中興産㈱ 名古屋油槽所	中部電力(株) 新名古屋火力発電所							
豊通エネルギー(株) 名古屋油槽所	キグナス石油(株) 名古屋油槽所							
宝石油化学(株) 九号地油槽所	日本ヴォパック㈱ 名古屋事業所							
ケミカルロジテック(株) 名古屋油槽所	(株)サンラックス 名古屋油槽所							
東邦液化ガス(株) 名港 LPG 基地	中川物産㈱ 名古屋第二油槽所							

第二種事業所								
シンコーケミカルターミナル(株) 名古屋事業所	日清オイリオグループ(株) 名古屋工場							
(株)築港 九号地倉庫	中部電力(株) 絶縁油リサイクルセンター							

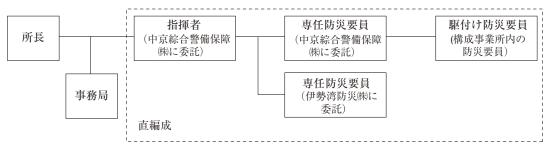
		指 定 外
(株)ダイセキ	名古屋事業所	(株)サンワテクノス

# 4. 共同防災組織の防災体制及び業務

(1) 指揮体制

防災センターは下記の図2のように指揮者以

下、専任防災要員及び駆付け防災要員の直編成 としております。



- ※ 所長は業務全般を統括する最高責任者である。
- ※ 所長不在の場合は、その任務を指揮者が代行する。

図 2

## (2) 保有防災車両及び資機材

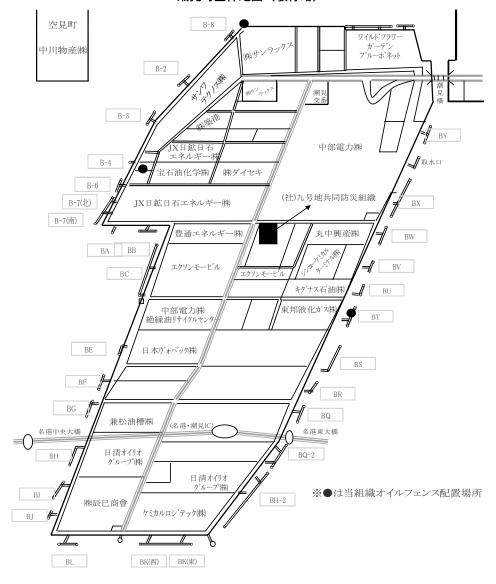
基	地	防災資機材		防災要員			
		大型高所放水車(省力型)	1台	指揮者	1名(常駐)		
		大型化学消防車(省力型)	1台	専任防災要員	3名(常駐)		
		泡原液搬送車(省力型)	1台	导压防火安县			
	陸	指揮車	1台				
防災セ	,	可搬式放水砲	1基				
火セ	火   上	耐熱服	2 着				
ンタ		空気呼吸器	4個				
1		防火衣	20着				
		泡消火薬剤	$1.2 \mathrm{k}\ell$				
	海	オイルフェンス展張船	1隻	船舶乗組職員	2名(常駐)		
		オイルフェンス	820m	防災活動要員	1名(常駐)		
	上	オイルフェンス巻取機	3基				

#### (3) 主な業務

- ア 災害防止のための予防活動
- イ 発災時における防災活動(消火、延焼阻 止等)
- ウ 通報・連絡業務
- 工 異常現象対応活動
- オ 各種防災資機材の点検整備
- カ 教育訓練の計画及び実施
- キ 構成事業所の防災体制及び整備の把握 災害防止活動の一環として、まずは"火災等

を発生させないこと" "発生したならば被害を 最小限に食い止めること"です。このため潮見 町全域の警戒巡視を陸上隊・海上隊で毎日行っ ています。陸上隊は指揮車によって巡回警備を 実施、海上隊はオイルフェンス展張船「しらゆ り」によって海上の巡回警備を実施し、特別防 災区域内における不測の事態に備え、災害の発 生防止に努めています。特に道路・護岸敷等の 工事状況等を把握して災害活動に支障のないよ う努めています。また関係当局からの要請が

# 潮見町全体地図(敬称略)



あった時は「特別警備」を実施し、九号地内の 更なる安全確保に努めています。

防災行動力の向上と防災意識の高揚のため に、各構成事業所の年間訓練計画に基づき、連 携した合同訓練の想定を考えて、防災訓練を 行っています。特に合同訓練において、九号地 共同防災組織の専任防災隊員が各事業所の施設 の状況・消火設備・消防用水・屋外給水配管の ルート・屋外給水栓の状況さらに自衛防災隊の 状況を把握し、災害時早期活動に万全を期して います。さらに防災関係機関との協調体制の確 立のため、愛知県・名古屋市消防局及び名古屋 市域石油コンビナート等特別防災区域協議会と 共同で実施される各種総合防災訓練にも積極的 に参加し、防災技術の向上に努めています。そ の訓練成果を名古屋市消防出初式にて披露し、



名古屋市消防出初式



高所放水車による放水

専任防災隊員の更なる士気高揚を図っています。

年2回(5月・10月)及び必要に応じ「九号地 防火研究会」を開催して「危険物安全週間、春・ 秋の火災予防運動しの成果高揚に努めると共に、 消防局からの震災対策情報、危険物災害事例、 法令改正の概要等、防災研究資料の提示を受け、 構成事業所の防災体制の確保に努めています。

その他に防火・防災広報並びに交通安全広報 活動として6月の「危険物安全週間」、春・秋の 「火災予防運動」、毎月の「防火の日」には、各 事業所と防災センターが広報幕を掲出し、火災 予防に万全を期するように努めています。

## 5. 駆付け防災要員の教育訓練

消防自動車の省力化により、有事の際に構成 事業所から防災センターに駆付ける「駆付け防



しらゆりのオイルフェンス展張訓練



泡ノズルを用いての放水訓練









理事長査閲訓練時の記録









総合防災訓練の記録

#### 駈付け防災要員の出動表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼間 9 :00~17:30	A 班	B班										
夜間17:30~9:00	B班	A 班										

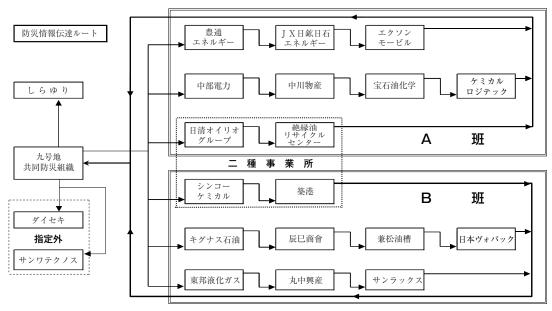


図3(敬称略)

災要員制度」を採用し、日頃から防災技術と防災意識の向上を目指すため、定期的に訓練を行い、訓練を通じて防災隊員と駆付け防災要員との一体化を図っています。その駆付け防災要員の登録基準は、愛知県消防学校で教育を受けた人より選出するようにしています。また駆付け防災要員にも構成事業所内の合同訓練や石油コンビナート総合防災訓練に参加して、訓練を通じて防災技能の向上を図っています。その駆付け防災要員の訓練による技術の進捗状況及び成果の確認をするため、構成事業所長参加の下に理事長査閲訓練を行い、更なる防災技術の向上に努めています。

災害発生時の情報、地震発生時や気象関連の情報を正確に伝達が出来るように、定例訓練前に通報訓練も兼ねて行い、有事の際に備えています。情報伝達方法は、A班とB班に構成事業

所を分けて、さらに 6 ルートに細分化 (防災情報伝達ルート図 3 を参照)を行っております。 これにより情報が迅速かつ正確に伝達することが可能になりました。

## 6. おわりに

東海地震、東南海地震及び南海地震が連動して発生する可能性が高いと言われており、予測によると、発生確率は30年以内に60%から70%と言われております。昨年、災害対策本部となる防災センター建物の耐震補強が完了し、また車両につきましても機動性、輸送力の強化を図り、迅速な情報収集、応急活動等を可能にしたワゴンタイプの指揮車を導入しました。このような流れの中で防災センターと構成事業所はますます強固な連携を図り、九号地の「安全・安心」を確保するために努めてまいります。